

《単位互換提供科目詳細（シラバス）》

* 科目 No.	2917
----------	------

科目概要記入欄

1. 開設大学	島根県立大学		開催 方法	□対面 ()	
				□オンライン (同時・録画・資料提示)	
				■その他 (未定)	
	正式科目名 副題	国際環境政治学		配当年次	3・4
	学問分野	番号	43	名 称	複合系 環境
3. 担当教員名	沖村 理史				
4. 単位数	2 単位		5. 開講学期	後期	
6. 開講期間 曜日・時間	2022 年 10 月 4 日 (火) ~ 2023 年 1 月 31 日 (火) 火曜日 14:50 ~ 16:20				
7. 基礎知識の有無	2. 「基礎知識を必要としない科目」				
8. 募集人数	5 人		9. 選考方法	書類選考	
10. 科目内容・ 授業計画	<p>国際的な環境問題は、21 世紀の国際社会が抱えるグローバル・イシューの主要な一つである。本講義では、主に地球環境問題とグローバル・ガバナンスに焦点をあて、諸問題の個々の内容に踏み込み、事例を検討する。具体的には、国際的な環境問題が社会化するプロセスとして重要な国際環境会議と、政策手段として重要な国際環境条約をとりあげ、意義と交渉過程を検討する。本講義の目的は以下の三点である。</p> <p>1) 現実に展開している地球環境問題の現状の把握とそれをとらえる視点の理解 2) 政策決定に当たり、直面するさまざまな側面の相互関連を自ら考える作業 3) 自ら考える作業を通じて出てきた問題点・意見の交換</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際的な環境問題に関する現状を理解し、基礎知識を説明できる ・国際的な環境問題への対応に関する基礎知識、基本原理、基本原則を説明できる ・国際的な環境問題の諸側面の相互関連を自ら考え、分析的に思考・表現することができる <p>【授業の内容】</p> <p>I. イントロダクション／地球環境問題</p> <p>第 1 回 ガイダンス／イントロダクション 第 2 回 環境と開発 第 3 回 発展途上国と持続可能な発展 第 4 回 国際環境会議と国際環境条約の意義</p> <p>II. 国際環境会議</p> <p>第 5 回 国際環境会議 (1) 国連人間環境会議 (1972) と国連環境開発会議 (1992) 第 6 回 国際環境会議 (2) ヨハネスブルグ・サミット (2002) 第 7 回 国際環境会議 (3) Rio+20 会議 (2012)</p> <p>III. 国際環境条約</p> <p>第 8 回 国際環境条約 (1) 越境大気汚染 (前編) 長距離越境大気汚染条約 第 9 回 国際環境条約 (2) 越境大気汚染 (後編) 大気汚染防止議定書 第 10 回 国際環境条約 (3) オゾン層保護 (前編) ウィーン条約 第 11 回 国際環境条約 (4) オゾン層保護 (後編) モントリオール議定書 第 12 回 国際環境条約 (5) 気候変動 (前編) 国連気候変動枠組条約 第 13 回 国際環境条約 (6) 気候変動 (中編) 京都議定書 第 14 回 国際環境条約 (7) 気候変動 (後編) パリ協定</p> <p>IV. まとめ</p> <p>第 15 回 地球環境問題をめぐる国際環境政治学の課題</p>				
11. 試験・評価方法	出席 (約 30%)、試験 (約 70%) で評価する。 ただし、今後の新型コロナウイルス対策の実施状況、また島根県立大学が行う対応措置によっては、試験に代わる評価を行う可能性がある。				
12. 別途負担費用					
13. その他特記事項	参考文献： 亀山康子、馬奈木俊介編『グローバル社会は持続可能か』岩波書店、2015 年。 亀山康子、馬奈木俊介編『資源を未来につなぐ』岩波書店、2015 年。				
14. 社会人受講	科目等履修生 (単位付与) として受け入れ		可	否	
	聴講生 (単位認定不要) として受け入れ		可	否	

※コロナ禍の影響により、対面授業はオンライン (同時・録画・資料) へ変更になる場合があります。